

多人数教育で政治理解への モチベーションを高める対話型学修

明治大学情報コミュニケーション学部
准教授 川島 高峰

実施講座の概要

- ▶ 明治大学 情報コミュニケーション学部
- ▶ 講座名称 政治学
- ▶ 科目配当 1、2年次
- ▶ 履修者数 107名 → 実質出席者数 約65名
- ▶ 教室定員 121名
- ▶ 情報環境 情報機器対応は教卓のみ 学生の無線接続可

この講座で対話型学習を連続的に実施することを試みた

従来の講義概要

全て座学

1. 座学 政治と国家、規範と現実
2. 座学 権力と正当性
3. 座学 ソクラテス アイデア説
4. 座学 プラトンへ 政治学の形成
5. 座学 プラトン
6. 座学 アリストテレス1
ニコマコス倫理学と政治学
1. 座学 アリストテレス2
正義、最高善、幸福
1. 座学 ホッブス 平等と競争

9. 座学 ロック
10. 座学 ルソー
11. 座学 一般意志 存在するのか
12. 座学 選挙1
13. 座学 選挙2
14. 座学 選挙3
15. 座学 総括

今回の実施概要

1. 座学 ガイダン 基本概念 政治
 2. 座学 基本概念 権力
 3. 座学 基本概念 国家
 4. 座学 ソクラテス
 5. 座学 ソクラテスからプラトン
 6. 座学 プラトン
 7. 座学 アリストテレス
 8. 座学 ルソー
 9. 座学 ホッブス
 10. A L 選挙に行かない若者について
 11. A L A Lの議題決定
 12. A L 選挙結果について
 13. 座学 政党とは
 14. 座学 先進国における政党政治の限界
- ◆ 試験（1月29日実施）
- A L = Active Learning

対話型学習実施に向けて考えたこと 動機づけ

- ▶ 政治学・初学者への動機づけ（教員にとって）
 - 1、2年生の興味関心・目線に合わせて学問の学びとなるのか？
 - そもそも、知識のない者に対話型などできるのか？
 - 「政治」への関心の動機づけが「政治学」の学びと言えるのか？
- ▶ 政治学・初学者への動機づけ（学生にとって）
 - 身近で当事者意識が持てる材料でなければ対話ができない
 - 対話に必要な知識提供がなければ議論ができない
 - 対話型を学びたいのではなく、座学型たて知識を学びたい

対話型学習実施に向けて考えたこと 運営

- ▶ 履修人数からして対話型学習のためにはグループ化が必須
 - 学生間の対話はグループ内で
 - 教員・学生間の対話は教員とグループ代表間で
- ▶ 多人数の履修者にアクティブ・ラーニングに必要な予習を期待できるか
 - 原則として、事前予習に該当する行為を授業時内に盛り込む
 - スマートフォン普及により、教室での調べ学習は容易化
- ▶ アクティブ・ラーニングの実施回数により授業デザインは異なる
 - 単発的に座学の合間で実施の場合
 - 座学の内容理解の深化を補完する内容であればよい
 - 連続的に実施する
 - 目的の明確化が必要。目的に向けた作業であることが自覚されないとグループはただのサロンになる。つまり、対話型学習が「先週の続き」ではなく、ゴールに向けた作業であるとの自覚が必要である。

対話型学習実施に向けて考えたこと 成績評価

- ▶ 成績評価をどうするのか？（教員にとって）
作業はグループ単位、評価は個人単位である
個々のグループ内での学生の行動を評価するのは困難、TAが必要
グループ活動での評価基準は？（発言数、リーダーシップetc）
→ それも「政治学」の成績評価の要素にしてしまっても良いのか？
- ▶ 成績評価をどうするのか？（学生にとって）
評価がグループ単位であれば優秀な学生に任せ「ただ乗り」すればよい
評価が個人単位ならグループ活動で頑張ることに意味はない
- ▶ 筆記試験とどう連動させるのか？
通常、多人数講義は筆記試験を成績評価の要件としている
(報告者の学部では必須)

対話型学習実施に向けて考えたこと 理念

- ▶ ソクラテス・メソッド（問答法）は政治学の原点でもある
- ▶ 議会制民主主義は、「コミュニケーションの実践」を前提とする
- ▶ それにもかかわらず、政治について他者と議論をする機会が殆どない
- ▶ 異なる見解との出会いを「対面コミュニケーション」で体験することがなければ、それは「多様性の理解」という知識に止まる。

対話型学習の実施 導入（起）（12/4 総選挙10日前）

▶ 導入の発問は、

- ✓ 学生に身近で興味深く、学生間でのアイスブレイキングになり、
- ✓ 市民社会の担い手として当事者意識に資するものであることが理想

選んだ議題

「選挙に行かない男と、付き合いはいけない5つの理由」

上記の主張を読みグループごとに議論を行い、グループでの議論を踏まえ、学生は個々人で「～について、私はアクティブ・ラーニングをしたい」という文言で終わるコメントを提出させることにした。

対話型学習の実施 展開（承）（12/11 総選挙3日前）

1. 導入で実施した学生のコメント集成を配布。これを議論の材料として、クラスとして何についてアクティブ・ラーニングをするのか、各グループで議論をして決定する。

決定した議題

「若者の支持政党と投票率」

この日に出された課題

「今回の選挙結果を踏まえ、①あなた、もしくは若者の支持政党についてあなたが考えたこと ②若者の投票率について、今後、どうするべきか、何をすべきかについて述べなさい」

回答期間 総選挙後12/15～次週の講義のある日の午前10時まで

対話型学習の実施 展開（転・結）（12/18日）

前回に課したレポートの集成を配布

このコメントから明確になった問題点は、政党とは何か？、諸政党の相違が判らない、ということであった。そこでYanooが実施していた「政党相性調査」をペーパー版で作成し実施し、これについてグループごとに議論をした。

このような展開から、「政党」について講義を行う必要性が生じてきたので、年明けは政党について講義を行うこととした。

当初、グループごとに主題に関する解決手法に関し法案趣旨といった決議案のようなものを提出させ、最終決議案作成に向けて、アクティブ・ラーニングを展開する構想であったが、学生の主題に関する知識の不足、個々人単位での成績評価の必要性から、対話型学習のこれ以上の連続は好ましくないと考え、座学に戻すこととした。

対話型学習から座学へ 結（2015/1/8・15）

これまでの展開を踏まえ、政党とは何か、なぜ先進国では政党の機能が低下し投票率が下がるのか、といったことについて講義を実施した。

そして、アクティブ・ラーニングにおける学生の疑問等を踏まえ、試験問題の作成を行った。通常、試験問題を学生との対話から作成することは、事前に問題が公開されることになるので、好ましくないと考えられるかもしれないが、

そもそも、政治並びに政治学における殆どの問題は解のない問題であり、あったとしても多様である。従って、アクティブ・ラーニングを経たうえで出た疑問そのものを試験問題とすることで、学生は試験に対するアクティブ・ラーニングの動機づけになるのではないかと考える。

対話型学習から座学へ 結 (2015/1/8・15)

これまでの展開を踏まえ、政党とは何か、なぜ先進国では政党の機能が低下し投票率が下がるのか、といったことについて講義を実施した。

そして、アクティブ・ラーニングにおける学生の疑問等を踏まえ、試験問題の作成を行った。通常、試験問題を学生との対話から作成することは、事前に問題が公開されることになるので、好ましくないと考えられるかもしれないが、

そもそも、政治並びに政治学における殆どの問題は解のない問題であり、あったとしても多様である。従って、アクティブ・ラーニングを経たうえで出た疑問そのものを試験問題とすることで、学生は試験に対するアクティブ・ラーニングの動機づけになるのではないかと考える。

座学の各講義から得た知見に基づいて現代の日本政治について論評をし、今後の日本の政党と投票のあり方について論ぜよ

対話型学習を実施した感想 教員として

- ▶ 発問には相当に工夫が必要である。しかし、ネット上の議論を利活用すれば考える手間を省ける。
- ▶ 筋書きのないドラマである。しかし、ある程度、学生のコメントの傾向は予測がつくので、予測をしたうえで、展開にあわせた準備をしておくことができるが、常に複数の選択肢を準備する必要がある。
- ▶ そもそも、筋書きそのものを学生と共に作成していくのが、アクティブ・ラーニングであり、教員には職人芸的な教育・教養スキルが求められる。
- ▶ 上記の理由から、多人数教育の場合、講座の前半に設定する場合は、座学講義を補足する単発型にした方が良い。そのようにしないと展開の方向性が読みにくくなる。
- ▶ 講座の終盤で実施した場合、期末の試験考査との連動性ということを考慮すると試験に向けた学生のモチベーションは高まる。

対話型学習を実施した感想 学生の感想①

- ▶ 知識に重きを置いた座学と、その応用としてのアクティブラーニングの両方を行えたのは良かったと思います。とくに、選挙についてのグループワークではみんなの意見も多く聞け、さらにそこからさまざまなアイデアが飛び出してくるのは非常に面白かったです。また、学生の意見をくみ取って柔軟にお話して頂けたのは川島先生ならではの授業ではだと思いました。先生がここまで学生を主体に据えてくださった授業ははじめてでした。
- ▶ 単なる座学よりも実践的かつ実用的な内容で面白かったです。ただ知識を詰め込むだけでは考えが偏りがちになりますが、グループ内で自分の意見をアウトプットし、他者と共有することで洗練されていくので意義のある授業だったと思います。先人たちの功績を学ぶことも重要ではありますが、極論それは個人的に資料を読めば補うことは可能です。ですが、同じ学生の立場で真剣に政治について議論できる機会は一般的な学生にはそう多くないと思います。そういった意味でもこの授業では貴重な体験ができました。また、自分たちに身近な政治について講義することは学生、ひいては若者の投票率を上げるためにも非常に効果的だと思います。何度も言いますが知識は後からでも詰め込めます。

対話型学習を実施した感想 学生の感想②

- ▶ 正直普段あまり政治情勢について考えることはないのですが今の情勢を知るいいきっかけになった。グループワークにすることで自分が怠けると他人にも迷惑がかかるのでいい緊張感を持って出来た。と同時に集中して授業に臨めたのがよかった。
- ▶ 政治学的思想から時事まで、幅広く学べて良かったです。提出者全員のアンケート内容をプリントという形でまとめて下さったので、たくさんの意見を知ることが出来てとても参考になりました。また自分としても、アンケートであれば意見や感想が思いついた時、すぐに提出することができたので良かったです。
- ▶ グループワークをする事で個人の主観による考え方だけでなく、グループメンバーの考えも聞き、それらを取り入れたうえで1つの回答を導き出したのが良かった。メンバーの意見を聞いて、そういう考え方もあるな、そういう切り口で考える事もできるのか、と思い非常に良かった。また初対面の人と議論をするという場が今までなかなか無かったので、新鮮で楽しかった。

対話型学習を実施した感想 学生の感想③

- ▶ 他の人とディスカッションを通じて授業を行う事によって、様々な面から選挙の事や今起きている問題について考えることが出来た。また、他の人の意見をプリントにまとめていただいたおかげで意見同士を比較する事が出来た。
- ▶ 最初に概念や思想等を講義されたことで、受講者の関心をひき、知識面に於いてベースラインを揃えることが出来たと思います。また、私はどちらかという内容が硬い授業でも好みますが、人によっては毛嫌いする場合も当然あります。それを解消するために、アクティブラーニングという形式で、みんなで全身を使って討議し合えたことは、非常に大きなことだと思います。自分の意見を言い、他人の意見を聞き、更に自分の意見を言う。この行為を繰り返すことで、よりよい意見を出し合えたと思います。またグループを友達同士で組んでいた場合、いつもと違う面を見ることが出来たと思います。初対面の人とグループを組んだ場合は、新しい友達を作ることにもつながり、初対面であったがゆえに本当に思っていることを素直に発言出来たと思います。

対話型学習を実施した感想 学生の感想④

- ▶ 後半のディスカッションの授業は、自分が抱いている意見が反対されて、最初は少しイラッとしましたが、再考してみると、自分の考えがいかにかかったかを再確認でき、楽しい授業でした。また、他の人の意見を聞くことによって、自分の中でも知識が増えていったので、よかったです。
- ▶ 今、話すという機会が減っている私たちにとって、このような場で思いを伝えるという行為はとても大切である。話すことによって自分の知識の少なさというのを痛感した。さらに人の意見を聞くことで違った見方を考えることができ、もっと知っていくことの必要性を感じた。問題に対しての改善案を出していくことは人それぞれ見方はもちろん違い、それだけ案が出る。どれを採用するのが適切なのか、この小グループでもなかなか決まらないことを国で行うということがどれだけたいへんなのがわかった。ディスカッションをすることで自分がこの授業を受ける前と今では果てしなく知識が豊富になった。